



白鷺教育会の底にあるもの



会長 進藤正洋 (S43)

編集発行人  
進藤正洋  
白鷺教育会事務所  
姫路市飾磨区  
清水2丁目128  
(姫路市教育会館内)  
☎(079)233-0892

「白鷺教育会一二〇周年」の記念事業は、このたびの新型コロナウイルスの影響で一年遅れになりましたが、昨年の夏に講演会と文化展、そして秋には記念誌を発刊することができました。ご協力いただき、ありがとうございました。

さて、創始一二〇周年を迎えた白鷺教育会は、世紀を越えて地域の教育発展に貢献してきた歴史的、社会的に大きな存在であり、これまでの多くの先輩方の教育に対する熱い思いや実績、英知などが今なお、脈々と継承されていることをご承知のとおりです。私たちは、この歴史的節目に、

改めて「白鷺教育会の底にあるもの」を考え、教育のあり方や教師の生き方などを学ぶとともに、組織や活動を今日まで継続させてきた白鷺教育会の「特性」を確かめていく必要があるのではないのでしょうか。

私が教職に就いて半世紀を超え、世の中も学校もずいぶん変わりました。しかし、今も学生相手に教壇に立つことがあります。それは、この年齢になってようやく、教育の意味や教師の役割が少しずつわかってきたように感じるからです。そして、とくに、教師に大切なのは、すべての活動の底にある「教師の心」のあり方で、白鷺教育会の根底にも、教師の人間性が強調され、常にその生き方が問われているのではないかと思うのです。

そこで、これからの白鷺教育会の活動で、教師の自己形成や生涯学習の支援をしていくために、次の二つのことについて考えてみたいと思います。

には直接的な指導よりも、「週録」や「培基根」（校長室だより）などを通して丁寧な助言で、常に教師自らの考え方や気づきを大切にされてきたとか。つまり、教育は子どもの命との「出会い」であり、実践の根底に常に必要な「教師の心」を大切にされたのではないのでしょうか。

① 「出会い」を生かす  
記念誌の「一二〇周年に寄せて」には、「白鷺教育会と私」、「先輩の教えに支えられて」、「よき教え、仲間との出会い」など、今も心に残る「出会い」と、そのときの具体的な「ことば」を取り上げている方が多く、それは今も明確に心に残っているようです。

教師は、優れた教師の中で本当の教師になると言われることがあります。すばらしい「出会い」や「ことば」のなかで、教育実践の底にある「教師の心」に気づき、自らすばらしい教師をめざしていく、そのような機会が白鷺教育会にあるのではないかと思います。

② 「教育英知」をつなぐ  
一二〇周年記念講演では、八鹿小学校で東井義雄先生に直接指導を受けてこられた米田啓祐先生から、「東井先生の人と教育」について貴重なお話を伺うことができました。

また、白鷺教育会が大切にしていく「教育英知」は、具体的な指導方法よりも、その実践の背景にある「教師の心」や「教師の生き方」に通じるものではないかと思えます。教師が自らの心にじっくりと問いかけたり、教育の英知に気づいたりすることが価値ある自己研鑽や自己形成につながると考えられるのです。

校長だった東井先生は、心にふれる人間教育を大切にされ、職員